



# この春、新スタートを切った会社の飛躍と 新展開を日野のハイブリッド車が担っている。

「この先、燃料費を軽減するにはコピー機本体の搬入・搬出にも  
燃費の良いハイブリッド車を導入する必要性を感じています。」— 黒木取締役談

「ハイブリッド車は、現在、コピー用紙やトナーの配送に使用  
しています。配送先は、市内の企業様向けがほとんどです。」  
と、お話しになるのは、株式会社 山形パッケージセンターの  
取締役で、山形営業所長の黒木善久様（以下、同社、所長）だ。  
同社は、2014年3月、北海道・東日本エリアで、石油輸送事業、  
ドレージ事業、広域・地域輸送事業、油槽所作業請負事業などを  
手がけ、中国にも進出しているホッコウ物流株式会社のグループ  
入りし、今後、営業倉庫・流通加工を行う総合物流企業として  
一段のステップアップを目指している。

社名の「パッケージセンター」は、創業時、地元の缶詰会社の  
空き缶の保管や贈答用パッケージの詰め合わせの仕事をしていた  
関係とのことである。昭和50年代、それまでの青焼きコピーに

代わりトナー方式のコピー機が登場した。同社は、倉庫の一角で  
当時、高価だったコピー機の保管、搬送・設置を受託することに  
なり大手事務機器メーカーの山形デポとなった。平成24年1月、  
同社は、企業PRを意識してコピー用紙とトナーカートリッジの  
配送用に環境にやさしい日野デュトロ ハイブリッドを導入した。  
5人のドライバーが運転して2年で約20,000km走り、**ほぼ大台に  
乗る燃費を達成している**。今後、日野自動車の省燃費講習を  
受ければ、さらに燃費アップできそうだ。**ハイブリッド車は、荷主様  
企業や搬入先のお客様の受けが良く、**昨年からの燃料費の  
値上がりを考えれば、コピー機本体の搬出・搬入用に3.5トン  
クラスのハイブリッド車があれば…と。今、所長は、代替期の  
近づいたディーゼル車を前に、燃費算盤を弾いている。



8年前に竣工した清潔感のある同社の山形営業所。西東北日野自動車の山形支店からクルマで5分の至近距離にある。



女性スタッフがテキパキと働く事務所の雰囲気は明るい。



デジタルタコグラフ、ドライブレコーダー搭載の日野デュトロハイブリッド2トン積み。

ハイブリッド車をバックに、在社していた皆様にお集まりいただき記念写真。

勤続20年のベテランドライバー富塚雄次様。




西東北日野自動車 山形支店 小林拓也さん  
お客様には毎週顔を出すようにしています。野球経験のある社員さんが多いそうなので試合したいです。気合の入った球をピシッと投げ込みますのでよろしくお願ひします。

## 株式会社 山形パッケージセンター

住所：〒999-3770 山形県東根市柏原三丁目3番11号  
TEL：0237-48-1706  
代表者：代表取締役社長 井川智章  
取材対応者：取締役 山形営業所長/運行管理者 黒木善久  
創業：1971（昭和46）年11月  
従業員数：80人 ハイブリッド車保有台数：1台  
<http://www.y-pc.co.jp/>



  
Gマーク認定取得  
ISO14001:2004  
[環境マネジメントシステム]認証取得  
競合メーカーが出る前は、山形県内のコピー機をすべて搬送・設置していたと語る  
取締役 山形営業所長 黒木善久様



市内便は、2回/日。50～150箱のコピー用紙とトナーを配達すると話す、業務課長の後藤茂美様。



山笑う、4月の山形。蔵王につながる背景の山々にはまだ雪が残っている。